

令和元年度“長寿祭”

福祉部会長 前田龍雄

10月12日（土）、接近中の超大型台風19号の影響もほとんどなく、大野東市民センターで、大野第一区の2回目の“長寿祭”を無事開催しました。今年度は、939名の皆様にご案内し、156名のご参加を頂きました。そのうち、80歳以上の方が110名いらっしゃいました。

第一部では、青柳区長の挨拶に続き、来賓としてご出席頂いた眞野市長（当時）、井上市議会議員に、ご祝辞を頂きました。

第二部は、宮島口東在住の今泉有希さんの司会で、一区の子ども達の和太鼓集団“柿の浦太鼓”でスタートしました。修学旅行で6年生がいない中、残りのメンバーで、しっかり演奏し、会場の大きな拍手をもらっていました。

“子ども舞踊”では、花寿宝会と芙蓉美会の女の子達が、“まりと殿様”“さくらさくら”など、可愛くも優雅な日本舞踊を披露し、日本情緒をたっぷり味合わせてくれました。

次の“フルートのしらべ”では、威風堂々の作曲で有名なエルガーの“愛の挨拶”等、クラシックの名曲を、宮島口上在住の徳永千寿さん（プロとして活躍中）のフルート演奏で楽しませてもらいました。フルートの美しい音色に会場はうっとりとしていました。

午前の部の最後のプログラム“歌のひととき”では、青葉台在住の平石敬子さん（プロとして活躍中）が声量豊かな美しい声で、“里の秋”等の日本の歌曲から、ビゼー作曲の“ハバネラ”（カルメンより）まで熱唱し、会場を大いに楽しませてくれました。

お昼休みは、沖村万年青会会長の乾杯の音頭で、皆さんの長寿と健康をお祝いし、食事を楽しみながら、周りの人たちとの交流を深めてもらいました。その後、青柳区長に高齢参加者の紹介をしてもらいました。ちなみに、今回の参加者の最高齢者は101歳の安本さんでした。そして、午後の部のスタートまで、演歌歌手でもある、司会の今泉さんが、懐かしい演歌を披露してくれました。

午後の部は、昨年も出演してもらい、大好評であった“おだまり一座”のみかわの玉三郎さんの“おだまりステージ”でスタートしました。抜群の歌唱力と軽妙なトークで会場を大いに盛り上げてくれました。

最後は、今年も、95歳になられる牧本さんが、カープの赤いTシャツのバックダンサーを引き連れて、恒例になった北国の春の曲に合わせたリズム体操で、長寿祭を締めくくってくれました。

末筆ではありますが、長寿祭の開催に多大の協力をいただいた、副区長、組長さん、民生委員、福祉部会員の皆様に、紙面をお借りし、改めてお礼を申し上げます。